

出張報告書

2026 年 3 月 23 日

| 所 属 | 職 名 | 氏 名 |
|---|---|--|
| クラウンブリッジ補綴学講座 | 講 師 | 酒井 貴徳 |
| 出張目的 | CAD/CAM 法による間接支台築造法の有用性についての研究 および歯科学学生に対する補綴領域のデジタル技術の教育手法の習得 | |
| 出張地 | オレゴン健康科学大学 CAD/CAM Dentistry | 時 期 2025 年 4 月 1 日 出発 2026 年 3 月 18 日 帰着 |
| 報 告 事 項 | | |
| <p>この度、オレゴン健康科学大学歯学部 CAD/CAM Dentistry に客員研究員として長期海外出張をさせていただきましたので、その概要についてご報告いたします。</p> <p>オレゴン健康科学大学は米国オレゴン州ポートランドにある公立大学で、1887 年にオレゴン大学医学部として創立し、現在は医学部、歯学部、薬学部、看護学部、公衆衛生学部をもつ総合医療大学です。オレゴン州で唯一の歯学部で、2014 年に現在の 12 階建ての校舎に移転しました。各学年約 70 名の学生に対し、多国籍で様々なルーツを持つ教員が教育・診療に従事しています。一方、研究には一部の教員および研究を専門とする研究職員、海外からの留学生、客員研究員が従事します。私が所属させていただいた CAD/CAM Dentistry は、本学卒の渡邊英彦先生が教授に就任されており Restorative Dentistry という保存修復と補綴が統合した大きな講座に含まれます。前任の主任であった Jack L Ferracane 教授から臨床・教育担当が Juliana Branco da Costa 教授、研究担当が Carmem S. Pfeifer 教授に代替わりしたタイミングでの在籍となりました。</p> <p>教育では、1,2 学年の各実習に参加させていただきました。スケジュールや提出物は、ポータルサイトで管理されており、動画配信による事前学習や復習、半数の学生毎に隔週で参加するフリップ実習、タブレットを使用して評価や試験を行いペーパーレスにするなどデジタル技術を駆使おり参考となることが多いと考えます。デジタル教育においては CEREC システムが導入されたデジタルルームが実習室に併設されており 1 回の実習で支台歯形成から装着までの工程を終えることもできます。また、評価については各項目が段階的に文章で提示されており、教員が評価する前に学生が自己評価することが徹底されており、学生の自己分析力および実習に臨む集中力の高さを感じました。</p> <p>研究においては、3D プリンターでポスト孔を付与した支台歯を製作し、ポスト孔の乾燥法についての研究および IOS を使用したスキャン精度についての研究を進め、前者については英論文を Restorative dentistry & Endodontics に投稿しました。また、滞在中に進行中であった短時間焼結ジルコニアの最小厚さについての研究および、歯科用診療用器具の洗浄法についての研究にも参加し知見と人脈を広げることができました。</p> <p>臨床では、学生診療と教員診療のフロアが分かれており、診療の主役は 3,4 学年の学生です。学生は 4 班に分かれ、保存、補綴治療を中心に担当患者を 1 人で診療し、約 10 名の学生につき当番の教員が監督するという方式をとっています。マイクロスコープを必要とする歯内療法やインプラント埋入は専門医が行いますが、CAD/CAM クリニックでは IOS による光学印象からインプラントの上部構造の製作および装着も学生が行っており、日本とは保険制度を含め大きな違いがありますが卒前で多くの経験を積める環境が整っている印象を受けました。</p> <p>この度は貴重な長期海外出張の機会を与えていただきました、井出吉信理事長、一戸達也前学長、片倉朗学長、山本仁副学長、新谷誠康国際交流部長、関根秀志教授に感謝を申し上げます。今回の出張で得られた経験を今後本学での教育、研究、臨床を通じて還元していきたいと考えております。</p> | | |